

NY市営スーパー計画

マムダニ市長が詳細発表

【ワシントン川河口昇幸】米ニューヨーク市のマムダニ市長は27日、公約で掲げる「アフォーダビリティ（暮らしの手ごろさ）」実現に向けた主要施策の一つ、品物が安価に買える「市営食料・日用品店」計画の詳細を記者会見で発表した。マムダニ氏は「米民主主義の社会主義者（DSA）」会員で、今年1月にニューヨーク市長に就任。米国内外から行政手腕や施策が注目されている。

2027年に第1号を開店

市営店について、マムダニ氏は「新鮮食品や乳製品、主要な生活必需品などを一律30%割引で提供する」と説明。「行政の役割とは人々の生活をより良くすることだ」と訴え、「その根本的な使命、責務を果たすための一歩」だと強調しました。



マムダニ市長（ロイター）

生活危機打開へ必需品一律3割引き

はあつてはならない」と述べ、生活費の危機を解決する姿勢を改めて示しました。マムダニ市長は4月に、同市営店を市内各行政区に1店舗ずつ、計15店舗を設置する計画を発表。2027年末までにブロンクス区に第1号を開店させ、29年までに全店舗を開業させる予定です。予算は7000万ドル（約115億円）です。今回の発表によると、2019年以降、全米で食料品価格が33%上昇し、市民の約80%が食料価格への不安を感じています。市営店の安価な品物提供で利用者の食料支出を約15%（月に90ドル、約1万4700円）へ、年間1000ドル（約16万3700円）節約することを狙っています。また、市営店の安価な品物が販売されるのは、市民の経済的負担を軽減するだけでなく、市営店が運営する「利用対象者を市民に限定する仕組みを定める例えは、（ニューヨークの住民であれば無料で作れ、美術館などの文化施設にも無料で入場できる）図書館カードのような証方式で誰が購入しているかを管理し、悪用を防ぐための仕組みを整える」と説明しました。

ガザで聴覚障害者倍増

補聴器・リハビリ施設不足

【カイロ川米沢博史】イスラエル軍による占領と封鎖が続くパレスチナ・ガザ地区で、聴覚障害者が苦しんでいます。パレスチナ赤新月社のメンバーで、特別支援教育・リハビリテーション専門家のマイサ・アジュル氏が27日、本紙の取材に応じ、爆音で聴覚障害者の増加や補聴器不足やリハビリ施設の破壊などの実態を明らかにしました。アジュル氏によると、ガザ地区の聴覚障害者は、イスラエルによるガザ侵襲前は約2万人でした。しかし爆音や爆撃を受けるなかで、現在確認されているだけでも約4万5000人に増加。詳細な調査を行えば、約6万人に達するとの推計もあります。



聴覚障害者の支援を行うマイサ・アジュルさん（6月19日、ガザ市（本人提供））

「聴覚障害者を忘れ去られた存在にしないでほしい。補聴器は音と人生につながる窓だ」と訴えるアジュル氏。人道支援団体や国際社会に対し、補聴器や関連機器の搬入やリハビリ施設の再建など継続的な支援を求めています。

「核保有せず」初の法制化へ 韓国 原潜導入で国外の懸念払拭 韓国政府が原子力潜水艦導入のために制定準備を進めている特別法案に、「核兵器を保有しない」と明記する。核兵器を保有しないことを明記する初め、国内法で、国際社会の懸念を払拭するための措置を講じた。原潜特別法案は原潜事業の第1の原則として、「核兵器の開発・製造・保有を目的とせず、核物質の転用または不拡散システムの信頼性を阻害する行為を行わない」と明記。核不拡散条約（NPT）の順守、国際原子力機関（IAEA）との協力、放射性物質からの国民の安全保証、環境保護などの原則も盛り込まれている。韓国政府は5月に原潜基本計画を発表した際、核兵器を開発・保有しないことを表明した。しかし国内の一部から、北朝鮮の核兵器開発を理由に独自の核兵器開発を主張する声が上がっている。

北朝鮮「完全な非核化」反発

金与正氏がARF非難の談話

北朝鮮の金与正（キム・ヨジョン）朝鮮労働党総務部長は27日、東南アジア諸国連合（ASEAN）地域フォーラム（ARF）を「米国の御用代弁者」と非難する談話を発表した。ARFは23日の外相級会合後に発表した議長声明で、朝鮮半島の完全な非核化に言及していましたが、北朝鮮は「ARFの正式メンバーではない」として参加しなかった。北朝鮮は「2年連続で欠席し、ARFの議長声明は北朝鮮の主張を反映していない」と強調した。

チャドICC脱退へ

米国が加盟国に要求

アフリカ北部チャドの外務省は27日、国際刑事裁判所（ICC）がチャドの領土に侵入したとして、チャドがICCから脱退を表明した。ICCを脱退する米国の加盟を見直すよう求め、チャドはICCの捜査対象はアフリカ諸国に集中しており、均衡が取れていないと主張した。脱退理由を説明したチャド外相は23日、米務次官と会談した。

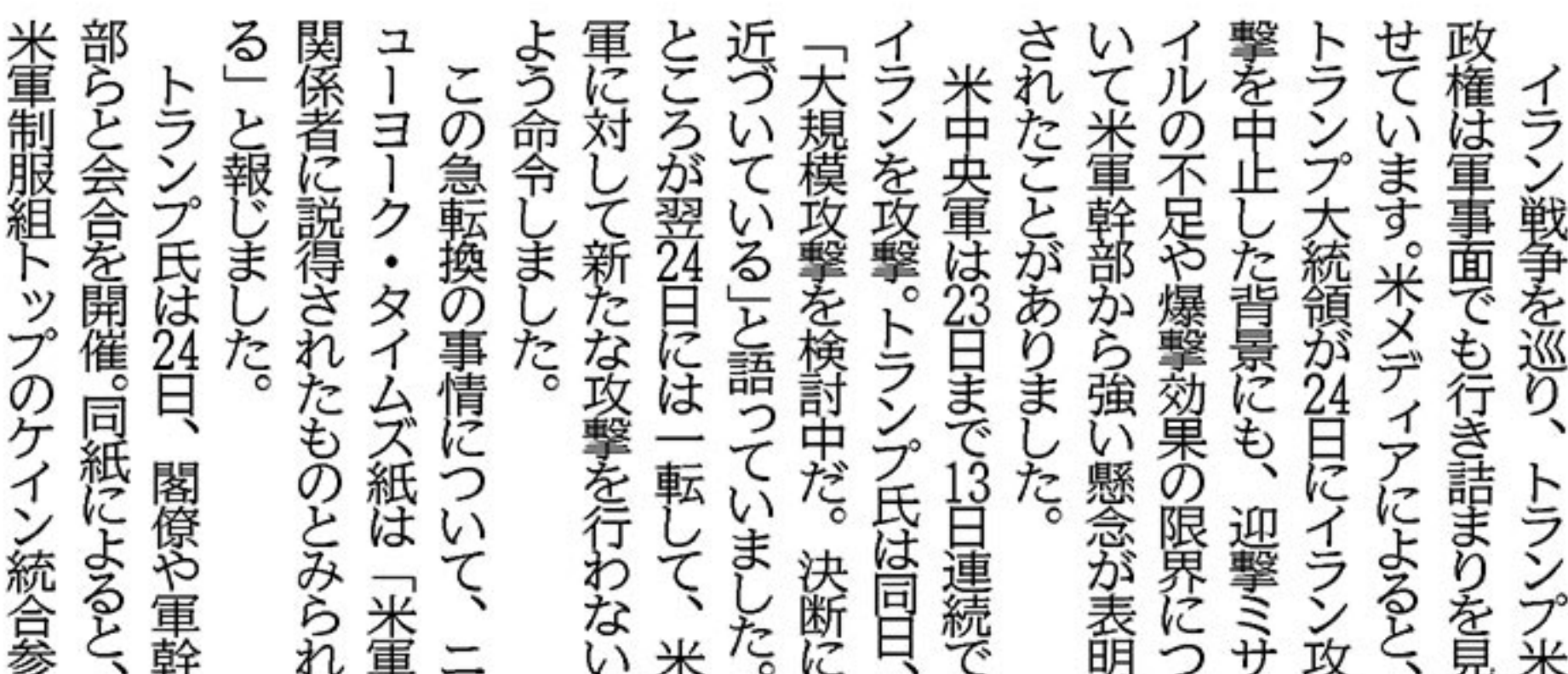
軍事面でも行き詰まる

トランプ米政権

イランと「良い対話」

トランプ氏 戦闘終結を楽観視 「ワシントン、カイロ」 時事」トランプ米大統領は27日、「イランと良い対話をしている」と述べ、戦闘終結の交渉進展に楽観的な見通しを示しました。一方で、外交が失敗すれば24日以降停止している攻撃を再開するとのけん制しました。大統領専断制した。

イラン戦争に軍も難色



イラン戦争を巡り、トランプ米政権は軍事面でも行き詰まりを見せています。米メディアによると、トランプ大統領は24日にイラン攻撃を中止した背景には、迎撃ミサイルの不足や爆撃効果の限界について米軍幹部から強い懸念が表明されたことがありました。米中央軍は23日と24日の連続でイランを攻撃。トランプ氏は同日、「大規模攻撃を検討中だ。決断に近づいている」と話していました。ところが翌24日には、転じて、米軍に対して新たな攻撃を行わないよう命令しました。この急転換の事情について、ニューヨーク・タイムズ紙は「米軍関係者に説得されたものとみられる」と報じました。トランプ氏は24日、閣僚や軍幹部らと会合を開催。同紙によると、米軍制組トップのケイン統合参謀本部議長は「イランへの大規模戦闘作戦の再開は実行可能だ」と述べ、中東での作戦に必要な迎撃ミサイルを危険なほどに減らしている」としてトランプ氏の計画に難色を示しました。米シンクタンク「戦略国際問題研究所」（CSIS）の分析によると、米軍は4月時点でイラン攻撃で、精密迎撃ミサイルの在庫の少なくとも45%、高度迎撃ミサイルシステム用ミサイルの在庫の少なくとも半数、パトリオット迎撃ミサイルの在庫の半数を使用していました。ニューヨーク・タイムズ紙によると、ミサイルの在庫不足はさらに深刻になっており、大規模攻撃を強行すれば、ヨルダン、クウェート、パレチナなど湾岸諸国の駐留米軍をイランの反撃から防衛することが困難になると予想され、トランプ氏の側近の間でも攻撃を強める計画が賢明だと考える者はほとんどいなかったといわれています。米ニュースサイト「アックス」によると、中東を管轄する米中央軍のクーパー司令官は24日、「ホルムズ海峡周辺での爆撃の効果は限りに達した」と述べて作戦中止を政権に進言しました。同サイトはこれがトランプ氏の判断に影響したとし、「大統領の側近らが軍事行動で達成できることは限られている」と認めたものだ」と伝えています。

米国民のイラン攻撃支持33%

ロイター世論調査 開戦以来最低水準に

ロイター通信が27日に公表した米国の世論調査結果で、トランプ政権によるイラン攻撃を支持すると回答した米国民が3人に1人、2月28日の開戦以来最低水準になったことが分かりました。調査は24～26日にオンライン形式で行われ、米国民とイスラエルがイラン攻撃を開始して以降、戦争支持は40%以下で低迷していますが、今回は33%にまで落ち込みました。同調査はまた、共和党支持者の40%、全米国民の69%が、トランプ大統領が「米軍がイランに開戦することの目的を明確に説明できていない」と答えたこと明らかにしました。米ジョージア州に住む無党派のライアン・アンダーソンさんはロイター通信の取材に、同盟国との関係があるのはわかっているが、助けを必要としている人が国内にたくさんいる」として、国内課題に目を向けるべきだと述べました。

【ワシントン時事】韓国のソウル中央地裁は27日、2022年の大統領選で虚偽の発言をしたとして公選法違反の罪に問われた前大統領の尹錫悦（ユン・ソンニョル）被告に対し、懲役1年6月、執行猶予3年（求刑懲役2年）を言い渡しました。尹被告側は判決を不服として控訴しました。

【ロンドン時事】バーナム英首相は27日、ウクライナのゼレンスキー大統領と会談した。英ウクライナが首脳会談



第2章 ケーキ盛り合わせ虚勢風（5）

「新卒で入って11年かあ。長かったな」

ハイボールのジョッキを片手に、今泉は先ほどから同じ言葉を繰り返している。一次会で肉をたっぷり食べたから、頼んだのは枝豆と塩辛、出汁巻き卵だけだ。鳥龍茶のグラスを手に、優平はちびちびと枝豆を口に運ぶ。これなら胸焼けの心配がない。

「我々も、もう立派な中年ですよ」

「伊予原は後輩に好かれてるから、副作用でだんだん命じ草が板についてきたな。中年、中年って最近言いきださる」

そういう今泉は、後輩からは怖い先輩と認識されている。だが、決して理不尽に怒るタイプではないのだ。

柳川は愚痴っていたが、恐らくあれは「ミスをした理由を説明してみろ」と言ったら、柳川が言い訳がましう事情説明したから「屁理屈言ってんじやねえ」と返したのだろう。

「次の職場では、後輩に優しくな。おつかない今泉のぶん、俺みたいに後輩に優しくしてバランスを取ってくれる人がいるかわからないから」

「へーい、気をつけますよ。伊予原みたいに優しい人にはなれないだろうけど」

あつという間にハイボールのジョッキを空にした今泉は、すぐさま同じものをおかわりした。この男は昔から大酒飲みだ。ついでに大食いだ。飲み会のあとに深夜のラーメンに行けるタイプなのだ。その点、偉い人からのウケはよかった。

男らしく元気で根性のある今泉と、なやなと覇氣のない伊予原。上司に好かれる今泉と、よく馬鹿にされた伊予原。そういう同期コンビだったが、それなりに仲良くやってきたのだ。

その今泉は、某高級ホテルチェーンのレス・トラン部門からヘッドハンティングされ、転職していく。

そんな同期の送別会くらい、酒を飲んで美味い肉を腹一杯食べて、気持ちよく送り出していたのに。

「伊予原、シメにラーメン食べて帰るか？」

居酒屋を出たところで、今泉が隣にあるラーメン屋を指さした。駄臭さが残る豚骨ラーメンのおいが、歩道までたつぷり漂っている。いたずらっぽく笑う今泉に、優平は苦笑したまま肩をすくめた。